1290 生活環境デザイン論

3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

牧野良三教授、萩野美有紀講師、渡辺衆講師

授業の概要と目標

私達の生活環境を形成するさまざまな道具や機器のデザインは、便利さや快適さを追求するだけでなく、省資源、リサイクル、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点に立った発想が求められるようになった。この科目では、これらの要件に敏感な生活者の視点に立って、人間とモノ、そして使われる環境との関係を多角的に捉え、それらのよりよい関係の在り方を考察したい。

授業は、面接授業において、生活環境に関わるプロダクトデザインの変遷を技術の進化と文化の変化から見た歴史的側面から、現在の状況をスライドによって俯瞰することから始める。また、生産の現場や、関係する施設や展示会などの見学等を折り込み、多角的にデザインを考察する。通信授業では、面接授業で触発されたテーマをもとに実製品のデザインを体験・考察し、その分析・評価をレポートする。

課題の概要

〇面接授業

生活を取り巻くプロダクト製品のデザインのあり方について考える。

〇通信授業

製品デザインの分析・評価

＊課題については学習指導書『生活環境デザイン論　2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

面接授業
↓
通信授業

[面接授業]

授業の概要と目標で示した生活環境デザインの視点に立ち、下記の内容を講義、実習、見学などを織り交ぜて行うオムニバス形式の授業である。最終日はテーマを定めてのレポート制作となる。

1. プロダクトデザインを、映像をまじえた講義により歴史的側面から考察する。自身の生活環境の変化とプロダクトデザインの関係を掘り起こす「生活温度表」の作成も行う。
2. 椅子のコレクションのデザイン分析
3. 製品デザインの分析と評価を、グループワークを通して体験し、パネルにまとめ発表する。
4. 施設や工場等の見学
5. バリアフリーの実体験
6. 最終日に、各実体験の内容のまとめと感想、これからのプロダクトデザインの在り方など、レポートを制作し発表を行い提出する。

[通信授業]

面接授業をふまえた取り組みが出題されるので、面接授業を先に受講すること。詳細は学習指導書による。面接授業最終日に説明がある。

成績評価の方法

面接授業と通信授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次]　3年次

[履修条件]　「プロダクトデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（生活環境デザインコース3年次編入学生を除く）。

[備　　考]　工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース3年次必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003年）
田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局　2006年）

学習指導書：『生活環境デザイン論　2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2019年）

その他

グループワーク及び学外実習がある。

1300 | **生活環境計画Ⅰ**

（2019 年度をもって金工・木工クラスは廃止）

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、萩原千春講師、高橋勇一郎講師、渡来一彦講師

授業の概要と目標

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。プロダクトデザイン系 4 年次は、現代の生活で避けては通れない問題である「環境保全のデザイン」と「すべての人に役立つデザイン」にテーマを絞る。エネルギーや資源問題など地球環境への配慮をしたエコロジーやリサイクルに関する製品と、本来デザインはすべての人のためにあるという観点からのユニバーサルデザインに関する製品の課題の発掘から製品企画を考え、具体的なプロダクト製品のデザイン提案を行う。

「生活環境計画Ⅰ」では“エコデザイン”を、「生活環境研究」では“ユニバーサルデザイン”の課題に、「生活環境計画 II」では問題提起から“デザイン計画書の作成”を学習し、卒業制作の自由テーマへとつなげていくことが望ましい。

※クラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、2016 年４月以降の入学生は選択不可。2015 年 10 月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は 2019 年度までとなるので注意すること。

課題の概要

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

〇面接授業および通信授業課題

プロダクトデザイン系

エコロジーやリサイクルをテーマとした機器や製品のデザイン・提案を行う。予習としてエコロジーやリサイクルをテーマとした機器や製品の調査分析を行い、問題点を明らかにしてキーワードを導き出し、多くのアイデアを抽出する演習を行う。面接授業では予習の案の中から 1 案、具体的なデザイン提案にまとめて、ラフモデルを製作し操作性の検証とプレゼンテーションの方法を学習する。通信授業では面接授業で提案したデザインを再検証、評価して、コンセプト、図面、レンダリング、モデルの写真等 A3 レポートにまとめて提出する。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、ストライプの色彩研究、リピート効果および花の図案化を行う。

コンピュータを使用したデザインプロセスの学習とプレゼンテーションを行う（実材実習は行わない）。

通信授業では、模写とリデザインを行う。

・陶磁クラス

通信授業において、各地の建造物や壁面に利用されている陶磁器の調査研究を行う。それを基にして、レリーフ表現によるユニットタイルのアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて、石膏型を用いて陶土によるレリーフ表現のユニットタイルを制作する。

・金工クラス　※2016 年４月以降の入学生は選択不可

面接授業において、彫金打出しレリーフ技法を習得する。通信授業ではその技法をもとにペンダント、ブローチ等を作る。

・木工クラス　※2016 年４月以降の入学生は選択不可

小椅子の制作

通信授業では、小椅子についてマーケットリサーチを行い、レポートに纏める。

面接授業で小椅子の制作をするので、デザイン案を数点、スケッチ及びラフ図面を書く。

面接授業では通信授業課題で用意したデザイン案を基にモデルや図面による検討のうえデザインを決定する。この科目では小椅子のデザイン、制作を通して、機能と造形の関係、構造、加工方法などの基本を学習する。

＊課題については学習指導書『生活環境計画Ⅰ・II ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2019 年度』を必ず参照すること。

授業計画

プロダクトデザイン系

予　習 → 面接授業 → 通信授業

クラフトデザイン系
陶磁クラス、木工クラス

通信授業 → 面接授業

クラフトデザイン系
テキスタイルクラス
金工クラス

面接授業 → 通信授業

[面接授業]

プロダクトデザイン系

前提講義、予習課題の発表に続いて、テーマの再検討、コンセプトの設定、デザイン作業と一般的なデザインプロセスを進め、簡易モデルとパソコンを使用したプレゼンテーションで講評を行う。

※ 面接授業前予習課題を初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス、木工クラス

前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図、制作を行う。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス、金工クラス

前提講義に続いて、各工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。

[通信授業]

プロダクトデザイン系

エコロジーやリサイクルをテーマとした機器を発案し、その背景となる様々な資料を収集して問題点を明らかにしてアイデアをスケッチで展開する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス、木工クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス、金工クラス

面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。

成績評価の方法

通信授業と面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

[履修年次]　4年次

[履修条件]　生活環境デザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

[備　　考]　工芸工業デザイン学科生活環境テザインコース4年次必修科目。スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画 I で受講することが望ましい。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003年）
田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局　2006年）
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002年）
田中秀穂 監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007年）
小松誠 監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009年）
十時啓悦 監修『木工　樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局　2009年）

学習指導書：『生活環境計画 I・II ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2019年度』
（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2019年）

造形専門科目

1310 | **生活環境計画II** | 3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

（2019年度をもって金工・木工クラスは廃止）

牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、渡来一彦講師、渡辺衆講師、萩原千春講師、高橋勇一郎講師

授業の概要と目標

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。

プロダクトデザイン系では、各自テーマを設定し、問題提起、調査、企画、デザイン提案までの各内容の掘り下げた学習を行い、デザイン計画書としてのプレゼンテーションの研究を行う。

クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行う。

※クラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、2016年４月以降の入学生は選択不可。2015年10月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は2019年度までとなるので注意すること。

課題の概要

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

○面接授業および通信授業課題

プロダクトデザイン系

各自デザインテーマを設定する。設定の理由、背景、問題点、デザイン提案などを纏めたプランを予習として、面接授業初日に持参すること。面接授業ではプランの評価と内容の再検討を行い、小論文の構成と論理的な表現形式に則ったデザイン提案書にまとめ、プレゼンテーションを行う。通信授業では面接授業で作成したデザイン提案書を基にデザイン計画書を作成する。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、インテリアファブリックス（椅子張り、車両シートなど）を研究する。マップ制作を通してデザイン提案を行う。

コンピュータを使用したデザインプロセスの学習とプレゼンテーションを行う（実材実習は行わない）。

通信授業においても同様のデザインを行う。

・陶磁クラス

通信授業において鋳込製品の調査を行う。それを基にして、注器（ピッチャー）のアイデアスケッチを行う。

面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて石膏による鋳込型を作り、鋳込み泥しょうを用いて注器を制作する。

・金工クラス　※2016年４月以降の入学生は選択不可

面接授業において、すり出しによる指輪（シルバー）の制作を行う。通信授業では鑞型鋳造によるジュエリーの制作。

・木工クラス　※2016年４月以降の入学生は選択不可

小テーブルの制作

・通信授業では、あらゆるシーンで使われるテーブルについてマーケットリサーチを行い、レポートに纏める。

面接授業でテーブルの制作をするので、デザイン案を数点、スケッチ及びラフ図面を書く。

デザインは面接授業で制作出来る大きさを考慮し、複雑なデザインは避ける事。

・面接授業では通信授業課題で用意したデザイン案を基にモデルや図面による検討のうえデザインを決定する。この科目ではテーブルのデザイン、制作を通して、機能と造形の関係、構造、加工方法などの基本を学習する。

＊課題については学習指導書『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2019年度』を必ず参照すること。

授業計画

プロダクトデザイン系

予　習 → 面接授業 → 通信授業

クラフトデザイン系
テキスタイルクラス
金工クラス

面接授業 → 通信授業

クラフトデザイン系
陶磁クラス
木工クラス

通信授業 → 面接授業

［面接授業］
プロダクトデザイン系
前提講義後、各自のプランを発表、グループワークによる各自テーマの評価と内容の検討を行い、小論文形式にまとめたものを発表し講評を行う。
クラフトデザイン系、テキスタイルクラス、金工クラス
前提講義に続いて、各工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。
クラフトデザイン系、陶磁クラス、木工クラス
前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図制作を行なう。
［通信授業］
プロダクトデザイン系
面接授業で纏めた各自テーマの小論文を、デザイン計画書として、ビジュアル的にまとめて表現、提出する。
クラフトデザイン系、テキスタイルクラス、金工クラス
面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。
クラフトデザイン系、陶磁クラス、木工クラス
学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参する。

成績評価の方法

通信授業と面接授業の総合評価とする。

履修条件及び履修年次

［履修年次］　4 年次
［履修条件］　生活環境デザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051 の特例を除く）。
［備　　考］　工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画 I で受講することが望ましい。

教材等

教科書：横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局　2003 年）
田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局　2006 年）
横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局　2002 年）
田中秀穂 監修『テキスタイル　表現と技法』（武蔵野美術大学出版局　2007 年）
小松誠 監修『陶磁　発想と手法』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）
十時啓悦 監修『木工　樹をデザインする』（武蔵野美術大学出版局　2009 年）
学習指導書：『生活環境計画 I・II ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2019 年度』
（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程　2019 年）

1320 | # 生活環境デザイン研究
（2019 年度をもって金工・木工クラスは廃止）

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

牧野良三教授、十時啓悦教授、鈴木洋教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、萩野美有紀講師、萩原千春講師、高橋勇一郎講師

授業の概要と目標

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。

プロダクトデザイン系では、高齢者や障害がある人を対象とした「バリアフリー」「福祉機器」「ユニバーサルデザイン」や「共用品」など、共に暮らせる社会と生活環境を実現するための具体的な機器の提案およびデザインをを行う。

クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行う。

※クラフトデザイン系の金工クラス、木工クラスについては、2016 年 4 月以降の入学生は選択不可。2015 年 10 月以前の入学生については選択可能だが、当該クラスの開講は 2019 年度までとなるので注意すること。

課題の概要

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

〇面接授業および通信授業課題

プロダクトデザイン系

予習で行う「日常調査」をもとに、面接授業では分析と問題の抽出、生活のしやすさや楽しさを増すための機器の考案、技術的な裏付けなどから、具体的なデザインの提案を行う。

通信授業では、面接授業での提案をもとに機器のデザインを行う。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、格子（チェック）の研究を行い、室内空間におけるタペストリーあるいはスペースデバイダー（間仕切）を織物で制作する。通信授業では、商品計画の為の企画とプレゼンテーションを行う。

・陶磁クラス

通信授業において、花器をデザインする。面接授業では、通信授業でデザインした花器から 1 点を選んで、さらに検討を加えて制作する。

・金工クラス　※2016 年 4 月以降の入学生は選択不可

通信授業では、金属製室内用品またはジュエリーのリサーチ及びデザインを行う。面接授業では、デザインした室内用品またはジュエリーを制作する。

・木工クラス　※2016 年 4 月以降の入学生は選択不可

収納家具（キャビネット類）の制作

・通信授業では、あらゆるシーンで使われる箱もの家具についてマーケットリサーチを行い、レポートに纏める。

面接授業で収納家具の制作をするので、デザイン案を数点、スケッチ及びラフ図面を書く。

デザインは面接授業で制作出来る大きさを考慮し、複雑なデザインは避ける事。

・面接授業では通信授業課題で用意したデザイン案を基にモデルや図面による検討のうえデザインを決定する。この科目では収納家具のデザイン、制作を通して、機能と造形の関係、構造、加工方法などの基本を学習する。

＊課題については学習指導書『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ／生活環境デザイン研究／卒業制作　2019 年度』を必ず参照すること。